

学長からのメッセージ

この春また多くの新生をこのキャンパスにお迎えしました。大学では、約500名の学部生と300名の大学院生が、そして、附属学校園にはおよそ400名が入学しました。

皆様のご入学を心から歓迎いたします。

今年、お茶の水女子大学では「大学憲章」を定めました。この憲章は、136年の歴史を踏まえ、附属学校園を含めて本学が目指すべき普遍的な方向性を示したものです。

明治8年(1875年)に本学の前身である東京女子師範学校が設置されて以来、本学は社会の様々な分野に優れた女性を送り出し、歴代の卒業生たちはいずれも、その分野での先達となって社会の発展に大きく寄与しました。本学が高等教育機関として極めて高く評価されてきたのはそれゆえです。この貴重な伝統を自覚しつつ、現在の社会状況の中で果たすべき教育研究機関の役割と大学のあるべき姿について議論を重ね、大学憲章を策定しました。この憲章を基に、今後いっそう社会の知的基盤の向上と発展に全学を挙げて努力してゆきたいと考えています。

歴史的にも、そして女性の活躍が社会的課題となっている現在においてはとくに、お茶の水女子大学の重要な使命は女性リーダーの育成にあります。「リーダー」は組織の責任者として理念を示し、組織を導き、その発展を促す役割を担う者を意味します。しかし、リーダーシップ

を発揮する手法は多様にあり、同時にリーダーの姿も様々に考えられます。リーダーは単に組織の「長」という「位置」を意味するのではなく、むしろ「要」となりうることはないかと私は考えています。人と人とを結びつけ、あるいは組織と組織とが関わる「要」となる役割がリーダーには求められるのであり、従って、それぞれの立場でリーダーシップの発揮の仕方があると思われれます。そのためには、多元的な思考力と豊かな想像力、そして主体性が重要です。

そこで、今年度からは、学生が自らの関心に沿って主体的に履修プログラムを選択し、専門的な能力と関連分野の知識を習得する学士課程教育プログラムを開始することにしました。すでに平成20年から開始している「文理融合21世紀型リベラルアーツ」にこの履修制度が加わることによって、学生が新たな途を自ら切り拓く力を身に付け、激動する社会状況にあって多様に力を発揮することを期待しています。

お茶の水女子大学は、教育においても研究においても多様性と主体性を重視し、真に社会に貢献しうる人間の育成に努めてまいります。

これからも皆様のご支援とご指導を賜りたくお願い申し上げます。

2011年4月 お茶の水女子大学長

羽入佐和子